

一致の法則（その1） — 主語と動詞の数の一致（呼応）

2003.5.1

I.Nishida
(Richmond)

まえがき

英語においては文中に用いられた各語が相互に相関するとき、人称、数、格、性について一致（呼応）しなければならない。また、時間的みたとき文中の主節、従節の動詞は時制の一致をみなければならない。これらを文法用語で「一致」または「呼応」と呼んでいる。英語は、他の西欧語と比べ格が主格、目的格、所有格の3格だけになり、また、名詞の性がほとんど消滅したことから語の変化・屈折が非常にシンプルになった。これにより、文中の「一致」の規則も他の言語にくらべはるかに簡単といえる。とはいえ、英語でも主格（主語）の人称と数によって動詞は変化する。（3 人称単数現在 — 動詞、主語の人称 — be 動詞）

英語では、格変化が単純化したぶん「主語」－「動詞」－（「目的」）という語順の拘束が非常に強くなっている。我々が使っている日本語は、英語に比べて、主語の人称によって動詞は変化せず、また、名詞の発想概念に単数、複数の区別意識が希薄であることから、主語の数（単数・複数形）によって動詞が変化することはない。（主語が自明の場合、時に省略されることがある）。このような日本語の特徴から、英語における「主語と動詞の一致」の規則に意外にとまどいを感じることもある。

今回は、「一致の文法」について「主語と動詞の数の一致」を取り上げた。本資料では、本題の一致規則についてかなり幅広く網羅し要約集とした。

なお、「人称（一人称～三人称・代名詞）と格（主格、所有、目的）」の一致については、中学基礎英語で十分理解できる場所であるが、もう一つの「時制の一致」については、あらためて別の機会に取り上げることとする。

また、付録に、<a + XXXXX + of> + 名詞 の表現集をかなりの数あげておいたので、表現の幅を広げる一助としていただければ幸いである。

目 次

1. 集合名詞が主語であるとき

1. 1 主語を一個不可分のまとまりとして見る時 — 動詞は単数
1. 2 主語がその構成体の個々を表すとき — 動詞は複数
1. 3 常に複数扱いの集合名詞

1. 4 不可算名詞として用いられる集合名詞

2. 形は複数形の名詞であるが、動詞は単数となるもの
 - (1) 学問名、病気など
 - (2) 形は複数形でも表すものが一つのもの（国名、団体名、雑誌名など）
 - (3) 時間・距離・金額などで意味するところが一ならば動詞は単数受け
 - (4) 分数の複数形

3. 複合の主語と動詞の呼応
 3. 1 二つの主語が **and** で結ばれているとき
 - (1) 二つ以上の単数主語が複数あるとき — 動詞は複数
 - (2) 動詞が単数受けとなる場合
 - (a) **and** で結ぶ主語が同一のものを指すとき
 - (b) **and** で結ぶ主語が相互不可分の事物、概念を表すとき
 - (c) **and** で結ばれる主語に、 **every, each, no** が冠するとき
 - (3) **and** で結ぶ一方の主語が肯定、他方が否定の場合 — 動詞は**肯定主語**に従う
 - (4) **and** で結ぶ両方が不定詞のとき — 動詞は通例は単数扱い
 - (5) 足し算、(掛け算) の場合 — 動詞は単数、複数いずれでも可
 3. 2 **or, Either...or, Neither...nor** で結ばれているとき
 3. 3 **A as well as B** : — 動詞は **A** の数に呼応
 3. 4 **not only A but (also) B** — 動詞は **B** の数と一致
 3. 5 **A with B** — 動詞は **A** の数と一致

4. 不定代名詞が主語である場合
 - (1) **Each, Every** — 動詞は単数
 - (2) **Either, Neither** — 動詞は単数が原則。しかし複数の場合も多い (**neither of** の時)
 - (3) **None** — 理屈では動詞は単数、現実には複数受け

5. 部分・数量などを表す語句が主語である場合
 - (1) <most, all, some, half, part> of + 名詞
 - (2) <分数 + of + 名詞>、<パーセント(percent) + of + 名詞>
 - (3) <a + XXXX + of > + 名詞(Y) : (付録：事例集を参照)

6. 漸層

(付録) <a(an) + XXXX + of> + 名詞 による数量・態様の表現集

1. 集合名詞が主語であるとき

1. 1 主語を一個不可分のまとまりとして見る時 — 動詞は単数形
1. 2 主語がその構成体の個々を表すとき — 動詞は複数形

My family **is** a large one. (私の家族は大家族だ)

My family **are** all well. (家族は (一人一人) 達者だ)

My class **is** very large. (私のクラスは大変大きい)

My class **are** all lazy. (私のクラスの者は (一人一人) 皆怠け者だ)

The audience **was** small. (聴衆は少なかった)

The audience **were** all satisfied. (聴衆は (一人一人) みな満足した)

The committee **consists** of five persons. (委員会は5人からなる)

The committee **are** all present at table. (委員は (一人一人) 全員着席している)

(注: 上記の例のように、形は単数形の名詞でも意味するところが構成体の個々を意識するときには名詞単数形のまま動詞は複数扱いになる。このような集合名詞は**人の集合体**を表す名詞が多いことからこれを群集名詞または衆多名詞と言う場合がある。)

その他の群集名詞: **crew, club, crowd, public, team, etc**

1. 3 常に複数扱いの集合名詞

数は少ないが、次のような人の集合体の群集名詞は、動詞は常に複数扱いとなる。

police (警察官)、**clergy** (聖職者)、**cattle**(牛、家畜)、**poultry** (家禽)

people(人々)、**personnel**(職員、人員)、**gentry**(紳士階級)、**peasantry**(小作人)

folk (人々)、**kindred** (血縁親族)、**laity** (聖職者でない信者)

(例)

Police **are** after the murderer. (警察は殺人犯を追っかけている)

Cattle **feed** on grass (牛は草を常食とする)

The clergy **have** boycotted the ceremony. (牧師達は儀式をボイコットした)

1. 4 不可算名詞として用いられる集合名詞

意味上は集合体を表すが、常に単数として扱われる名詞がある。量の多少を表すときは **much**, **little**, 数を数えるときは **a piece of...., an article of....** 等の形を用いる。

Furniture, machinery, baggage, luggage, clothing, merchandise など

(例)

Furniture **consists** of pieces of furniture.

There **are** four pieces of furniture in the room.

2. 形は複数形の名詞であるが、動詞は単数となるもの

名詞の形は複数形であるが意味は単数を表しているもの。

(1) 学問名、病気など

Mathematics **is** the subject which I hate most.

Phonetics **is** the science of pronunciation.

Mumps **is** a disease caused by a certain type of virus.

(2) 形は複数形でも表すものが一つのもの (国名、団体名、雑誌名など)

The United States **is** one of the richest countries in the world.

The Japan Times **is** the most widely read English newspaper in Japan.

(3) 時間・距離・金額などで意味するところが一のもの

Four kilometers **is** a good distance for a walk.

Two hours **is** enough to finish the repair.

(4) 分数の複数形

Three fourths of the earth's surface **is** water.

Two thirds of the total floor of the building **is** already occupied.

但し、

Two thirds of the French public **are** against the U.S attack on Iraq.

(人々の一人一人を意識した場合)

Two thirds of the French public **is** against the U.S. attack on Iraq.

(ひとまとまりとして意識した場合)

3. 複合の主語と動詞の呼応

3. 1 複合主語：二つの主語が **and** で結ばれているとき

(1) 二つ以上の単数主語が複数あるとき — 動詞は複数形

He, she, and I **are** of the same age.

(2) 動詞が単数受けとなる場合

(a) **and** で結ぶ主語が同一のものを指すとき

The poet and statesman **is** dead.(詩人で政治家であった人が死んだ)

(b) **and** で結ぶ主語が相互不可分の事物、概念を表すとき

Bread and butter **is** a good kind of food.(バターつきのパンは良い)

The wheel and axle **was** broken.(その車(輪と軸)が壊れた)

(c) **and** で結ばれる主語に、every, each, no が冠するとき

Each boy and girl **has** a flag in his or her hand.

Every hour and every minute **is** important.

No desk and no chair **was** brought in.

(3) **and** で結ぶ一方の主語が肯定、他方が否定の場合： **動詞は肯定主語に従う**

I, and not he, **am** to go.

He, and not I, **is** to be chosen.

(4) **and** で結ぶ両方が不定詞のとき — 動詞は通例は単数扱い

To get up late and to be idle all day **is** his habit.

(5) 足し算、(掛け算)の場合 — 動詞は単数、複数いずれでも可

Two and three **is(are, makes)** five.

Three times four **is(are, makes)** twelve.

(注： 引き算、割り算の場合は単数扱いが普通)

Two from five **leaves** three.

Four divided by two **makes** two.

3. 2 複合主語：二つの主語が **or**, **Either...or**, **Neither...nor** で結ばれているとき

後者一致の原則： — 一般に**動詞に近いほうの主語**の数に動詞は呼応する。

You or he **is** wrong.

Either they or she **knows** the truth.

Neither he nor I **am** fond of it.

3. 3 複合主語： **A as well as B**： — 動詞は **A** の数に呼応

(本旨は、**B** はその本来の性質として **A** に関する陳述の理解を助けるために用いられている客に過ぎないため)

I as well as you **am** glad to hear that.

His eyes as well as his nose **were** injured.

3. 4 複合主語： **not only A but (also) B** — 動詞は **B** の数と一致

(本旨は、上の **as well as** とは逆で、**A** は客であって、**B** が主であるから)

Not only you but also I **am** hungry.

3. 5 複合主語： **A with B** — 動詞は **A** に一致

(**Except, but, together with** も同じ)

The house (together) with goods **was** burnt down.

The bat together with the balls **was** stolen.

Nobody but Jack and Betty **was** there. (Jack and Betty だけがいた)

4. 不定代名詞が主語である場合

(1) **Each, Every** — 動詞は単数

Each boy **has** a little flag. (各少年は小旗を持っている)

Each of the boys **has** a flag. (少年たちはめいめい旗を持っている)

Every country **has** its own national flag.

(2) **Either, Neither**： 動詞は単数が原則。しかし複数の場合も多い (**neither of** の時)

Either road **leads** you to the station.

Neither story **is** true.

(Neither of these books **are** interesting.)

(3) **None**： 語源 (**no one**) からから見れば、動詞は単数受けが理屈であるが、現実には複数が多くて無難。

None of my friends **come(comes)** to see me.

ただし、不可算名詞の場合、動詞は単数となる。

None of this money **is** yours. (一銭たりとも君のものではない)

5. 部分・数量などを表す語句が主語である場合

(1) <most, all, some, half, part> of + 名詞

(a) of の次の名詞が単数なら、動詞は単数、of の次の名詞が複数なら、動詞は複数受け

Part of the **building** **was** destroyed by the earthquake.

Most of **the students in the class** **are** lazy.

(b) of の次の名詞が集合名詞のとき、動詞は複数受けが普通。

Most of the **audience** **were** booing.

(2) <分数 + of + 名詞>、<パーセント(percent) + of + 名詞>

of の次の名詞が複数名詞なら動詞は複数、単数名詞なら動詞は単数受け

Two fifths of the students **are** boys.

Three of fifths of the report **refers** to the abduction case by North Korea.

Twenty percent of the products **are** exported.

Over ten percent of the population of Japan **lives** in Tokyo.

(3) <a + XXXX + of> + 名詞(Y) : (付録：事例集を参照)

(a) a + XXXX + of で数量を意味するときは、名詞(Y)の数に呼応

A total of 15,000 citizens **are** marching the street.

There **are** a number of places to visit in Kyoto.

(b) XXXX が集合名詞的性格を持っているとき、単複両様の扱いあり。

A group of scholars **are** investigating the cause of SARS.

A group of Minamata disease patients **demands** the compensation.

(c) a plenty<a lot, lots> of + Y(名詞)

Y が複数名詞のときは、動詞は複数； Y が物質名詞のときは動詞は単数

Plenty of books **were** published this year.

Lots of money **was** stolen.

(注意)

・ a number of YY. : 動詞は複数受け (意味：多くの YY)

A number of workers **were** fired.

・ the number of YY. : 動詞は単数 (意味：YY の数)

The number of the unemployed **has** exceeded 3 million.

・ a series of + YY : 動詞は通例は単数受けとなる

A series of misfortunes **has** destroyed her life

6. 漸層

2個以上の名詞が並置され、修辭学的に言う漸層をなし、その勢いが急なとき動詞は最も近い名詞の数に一致する

For a while, glory, war, everything **was** forgotten.

To them his heart, his love, his griefs **were** given.

=以上=

追補： 2008/06/23

(参考文献)

- ・ 「英文法汎論」(細江逸記)
- ・ 「英語学事典」(大修館)
- ・ 「New Handbook of English」(研究社)
- ・ 「ロイヤル英文法」(綿貫、他)
- ・ 「英辞郎」